

まちづくり

自治体職員の「市民」活動が、街のイメージを変えた



誰が

市の職員が

何をして

「一市民」としての活動を起こすことで

どういう成果が

市のブランドイメージの転換につながった。

現在「赤れんがのまち」として全国的に知られるようになった舞鶴市。しかし、20年くらい前までは、舞鶴市民のほとんどが赤れんがの価値に気づいておらず、赤れんが建築物は「いつかはこわして建て直さなければいけない」存在にすぎませんでした。

市職員の「これ、使えるかも知れない」の気づきで始まった活動が、他地域とのネットワークを築き、舞鶴市民の共感と参加を得ることで次第に大きな流れとなって、その後のジャズフェスティバルなどイベントの実施や舞鶴市の一連の赤れんが活用施策の実現へとつながっていくのです。

◆ 協働のポイント

1. 行政職員も地域においては一住民。住民活動は他人事というのは「？」。
2. 住民活動は自分の興味のあること、好きなことをやればよい。また、興味のあること、好きなことから生まれる発想は重要。



1. これまでの経過

- 昭和63年：舞鶴市職員の自主研究グループ「舞鶴市まちづくり推進調査研究会」発足。
- 平成元年：舞鶴市まちづくり調査研究会の「都市の個性化分科会」が横浜市に視察に行き、市職員との話の中で赤れんが建築物の価値に気づく。
舞鶴市が市所有の赤れんが倉庫のライトアップを実験的に実施。
- 平成2年：舞鶴市職員で「まいづる建築探偵団」発足、市内の赤煉瓦建築物の調査を実施。
市内神崎地区に全国5例目のホフマン式輪環窯を発見。
「第1回赤煉瓦シンポジウム舞鶴」開催。
- 平成3年：市民グループ「赤煉瓦倶楽部・舞鶴」（以下、「赤煉瓦倶楽部」で記載。）発足。
赤煉瓦倶楽部が「赤煉瓦サマー・ジャズ・イン舞鶴'91」を開催（以降、現在まで毎年開催）。
全国の赤煉瓦建築物の保存・活用と交流を行う「赤煉瓦ネットワーク」発足。
- 平成5年：「舞鶴市立赤れんが博物館」オープン。
舞鶴市「赤れんがフェスタ in 舞鶴」を開催（以降、市主催で毎年開催。赤煉瓦倶楽部は当初から一部企画運営、平成17年から共催、19年は実施委託）。
- 平成6年：「舞鶴市政記念館」オープン。
- 平成12年：赤煉瓦倶楽部、特定非営利活動法人化。
- 平成14年：赤煉瓦倶楽部「まちづくり功労者国土交通大臣表彰」受賞
- 平成16年：赤煉瓦倶楽部、指定管理者として「舞鶴市政記念館」の管理運営開始。
- 平成19年：「まいづる智恵蔵」オープン。（赤煉瓦倶楽部、指定管理者。）
舞鶴市赤れんが倉庫群保存・活用検討委員会設置。
経済産業省近代化産業遺産にホフマン窯、赤煉瓦倉庫群等が認定。

2. 赤煉瓦倶楽部の活動内容

- ・赤煉瓦に関するイベントの企画開催
（赤煉瓦ジャズ祭主催、赤れんがフェスタ共催等）
- ・赤煉瓦ライトアートの実施
- ・赤煉瓦に関する情報発信
- ・赤煉瓦保存基金の募金
- ・クリーンキャンペーンに参加
- ・赤煉瓦ネットワークの運営
- ・「舞鶴市政記念館」「まいづる智恵蔵」の管理運営



< N P O 法人赤煉瓦倶楽部舞鶴の馬場理事長にお話しを聞きました >

活動の始まった経過を教えてください？

そもそものきっかけは、昭和63年に市の若手職員でつくった自主研究グループ「舞鶴市まちづくり推進調査研究会」です。市の総合計画の原案をつくるため、7つの分科会に分かれて、研究に取り組みました。私は「都市の個性化」分科会だったのですが、そのメンバーで横浜市の自主研究グループを視察しに行きました。そこで、赤れんが建築物の価値に気づくことになるのです。



N P O 法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴
理事長 馬場英男さん

「明日はどこを見学したいですか。みなとみらい21の赤煉瓦倉庫を見たいですか。」
「その赤煉瓦倉庫はどのようなものですか」
「映画やテレビの撮影舞台になっている赤煉瓦の倉庫ですよ。知らないんですか。明治の建物で以前は保税倉庫として使用されていたのです。市と市民の保存運動で残されることが決まり、ホッとしているところなんです。横浜市では赤煉瓦倉庫を核とした『赤煉瓦パーク構想』の計画があり、倉庫の活用について検討しているのです。」
「赤煉瓦の倉庫なら舞鶴にはなんぼでもありますよ。市役所の倉庫にも使っとるし、数えたことはないけど減茶苦茶あるで。」
私が舞鶴には赤煉瓦がいっぱいあると自信いっぱいにするのを聞いた内藤は、「エー、そんなにあるん。」といきなり関西弁になる。
その後は、なにしろ赤煉瓦の話ばかり、内藤の熱心な言葉に圧倒され、ほんとうにこんなものに価値があるのかという疑問も持ちながらも、聞いていると面白くなる。もしかしたら、これは使えるかもしれない。
(馬場英男他著「赤煉瓦ネットワーク【舞鶴・横浜】物語」公職研刊 から抜粋。一部変更)

おすすめですよ。

舞鶴のまちづくりに特別な思いをもっておられたのですね。

「まちづくり推進調査研究会」で市民に舞鶴市のイメージについてアンケートを行ったのですが、「雨が深い」「暗い」「若い人が少なくて活気がない」「引き揚げのまち」などマイナスイメージが多く、プラスのものはあまりなかったんです。色でたとえるとグレーみたいな。自分も学生の頃、素直に舞鶴出身と言えなかった経験があり、若い人が自信を持って「舞鶴」と言えるようにまちのイメージを変えなければいけない、そうじゃないと若者は舞鶴に帰って来てくれないと考えていました。横浜に行ったのは、そういうプラスのイメージになる材料を捜していた頃だと思えます。

当初は「赤れんが」の価値に気づいていなかった？

市内にれんが造りの建物があることはわかっていましたが、どちらかといえば、「つぶして」「建て替える」べき存在だったのです。これを活用して何かをやらうなんてことは夢にも思っていなかったから、横浜が一生懸命保存しようとしているのには、本当にビックリしました。



舞鶴で開催したシンポジウムには随分たくさんの方が集まりました。

その後の横浜との交流の中で、全国の赤れんが建築物の保存・活用を行っている団体等に呼びかけて、ネットワークをつくらうという話が進みました。その流れの中で一度舞鶴でシンポジウムを開くことになり、平成2年11月に開催、全国19都市から四十数人が参加してくれました。その話を聞いた舞鶴市民も含めて合計180人、立ち見も出る盛況になりました。当時の市長が、「こんなものを見るために、なんで全国から人が集まってくるんだ」と不思議がっていました。

(市長は、当日のスピーチで「赤れんがの建物は市の発展に邪魔なものと思ってきたが、貴重な財産かも知れないと初めて知りました」と発言。)

このシンポジウムの成功が一連の流れを語る上で、一つのポイントになったと思います。

その後、赤れんがに関わっての取組は、短い間に飛躍的に進んでいきます。

シンポジウムの頃までは市職員中心の活動でした。シンポジウムの中で市民も巻き込んでとの提案があり、一緒になって動いてくれる人を募集、平成3年に「赤煉瓦倶楽部・舞鶴」が発足しました。「赤れんがは素敵と感じていた」という方や「舞鶴をもっとよくしたい」思いをもった方など、約150人が集まってくれました。

また、「赤れんがの舞鶴」を広く知ってもらうためにジャズフェスティバルを開催することにしました。これは「まいづる建築探偵団」顧問の京都工繊大の日向先生と赤れんが倉庫の前を歩いて、「ここに合うのはジャズですね」ということで決まりました。二人共、ジャズ好きだったのです。この企画運営も2回目以降は、「赤煉瓦倶楽部」有志を中心に実行委員を募りました。市民が参加してくれたことで、大きなイベントとして定着しています。

一般市民も一緒になった活動となり、私たちが頑張ってそれらの方々の声を市に伝えてきました。それが赤れんが博物館の誕生など、一連の舞鶴市の赤れんが活用施策の実現につながったのだと思っています。

行政職員が一市民としてまちづくりの取組に携わることについて、どうお考えですか？

行政職員は、どの部署につなげたら話が早いかなどの知識もっています。市民活動に加われば、大きな戦力となりますね。

また、仕事以外の活動を行うことは、行政職員にとってもプラスになります。将来への自分への投資と考えて、自分の興味のある分野で、行政職員はもっと市民活動に参加して行くべきだと思います。

今後、どういう風に活動を続けられますか？

舞鶴への思いが、横浜との出会いを生み、人と人との出会いにつながりながら今日までやってきましたが、まだ最初に感じた使命をすべて達成できたわけではありません。舞鶴のイメージを向上させて、新たな働く場所をつくり、若い人たちに帰ってきてもらう…。

舞鶴では今、赤れんがを中心においたまちづくり計画が動き始めています。これが実現したならば、当初の使命の達成に近づくこととなります。そうした夢の実現までは大変ですが、頑張っていきたいと思っています。



これも大事!かも → **新しい住民の活用**

赤煉瓦倶楽部舞鶴でジャズフェスティバル開催の主要メンバーとなっている方の特徴として、よそから舞鶴に移り住んで来られた方の割合が大きいそうです。

「舞鶴は赤れんがのある素敵な町」「何かで市の活性化に役立ちたい」という思いで、積極的に活動されています。

新しく住民となった方は、昔から地域に住んでいた方に比べ、地域とのつながりが薄い反面、だからこそ地域や人とつながる機会を求めていることが考えられます。新旧の区別なしに活動に参加ができて、地域の主役となれる機会を設けるならば、新しい大きな力を手に入れることができるのではと考えます。

**【この事業に関するお問い合わせ】**

NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴
(舞鶴市政記念館内)

TEL : 0773-66-1096 FAX : 0773-64-6364

NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴に関する情報は、以下のサイトを御覧ください。
<http://www.redbrick.jp/>

府民協働事例集 (平成20年3月発行) より